

## 鹿児島県薩摩半島から得られたヒメツバメウオ

出羽尚子<sup>1</sup>・中村潤平<sup>1</sup>・藤井琢磨<sup>1</sup>・是枝伶旺<sup>2</sup>・渡部泰斗<sup>3</sup>・本村浩之<sup>4</sup>

<sup>1</sup> 〒 892-0814 鹿児島市本港新町 3-1 いおワールドかごしま水族館

<sup>2</sup> 〒 890-8580 鹿児島市郡元 1-21-24 鹿児島大学大学院農林水産学研究所

<sup>3</sup> 〒 890-0056 鹿児島市下荒田 4-50-20 鹿児島大学水産学部

<sup>4</sup> 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

### はじめに

ヒメツバメウオ *Monodactylus argenteus* (Linnaeus, 1758) はスズキ目ヒメツバメウオ科に属し、成魚は内湾や汽水域、幼魚は汽水域や淡水域に生息することが知られている(波戸岡, 2013)。本種はインド・西太平洋に分布し、国内では主に大隅諸島や琉球列島に分布するが(波戸岡, 2013; 吉郷, 2014; 木村ほか, 2017; 萬代, 2019)、千葉県、神奈川県、和歌山県、高知県、および宮崎県など九州以北の太平洋沿岸地域からも散発的に本種の小型個体が報告されている(山本ほか, 2000; 山川ほか, 2017; Iwatsuki et al., 2017; 楫・脇本, 2019; 三木, 2021; 本村, 2022)。

2021年12月に薩摩半島南岸の枕崎市で本種1個体が採集され、かごしま水族館で飼育されている(2022年12月現在)。さらに、2022年6月から11月にかけて薩摩半島南岸の南さつま市坊津町と南九州市穎娃町にて合計8個体のヒメツバメウオが採集された。本種は鹿児島県本土においては2003年度版鹿児島県レッドデータブックに「薩摩地方が分布北限」との記述があり(米沢, 2003)、大分県から鹿児島県大隅半島太平洋沿岸地域までの日向灘地域の魚類目録であるIwatsuki et al. (2017)において本種がリストされているが、両文献において地名などの情報は明記されておらず、これまで標本や写真に基づく本種の鹿児島県本土からの確実な分布記録は知られていない。そこで、上述の9個体を鹿児島県本土における標本

と生体に基づくヒメツバメウオの確かな記録としてここに報告する。

### 材料と方法

標本の作製、登録、撮影、および固定方法は本村(2009)に準拠し、標準体長は体長と表記した。飼育生体は画像解析ソフト Image J (National Institute of Health, Bethesda, Maryland, USA)によって、水平側面から撮影した生体と定規の写真を用いて計測した。本報告に用いた生体標本(KCA22W0271)は2022年12月現在かごしま水族館で飼育されており、今後死亡した場合はかごしま水族館の標本コレクション(KCA)に液浸標本として同一の標本番号で保管する予定である。その他の個体の標本と生鮮時の写真は鹿児島大学総合研究博物館(KAUM)に所蔵されている。なお、本稿における琉球列島の範囲は、Motomura and Matsunuma (2022: fig. 5.2)にしたがってカラ列島から八重山諸島にかけての海域とした。

### 結果と考察

***Monodactylus argenteus* (Linnaeus, 1758)**

**ヒメツバメウオ** (Figs. 1, 2)

**生体標本** KCA22W0271, 体長 60.0 mm (2022年2月19日計測), 鹿児島県枕崎市鹿籠麓町 花渡川下流 (31°17'24"N, 130°17'27"E), 手網, 水深 1 m, 2021年12月4日, 池上邦弘。

Dewa, N., J. Nakamura, T. Fujii, R. Koreeda, H. Watabe and H. Motomura. 2022. Records of *Monodactylus argenteus* (Monodactylidae) from the Satsuma Peninsula, Kagoshima Prefecture, southern Japan. *Nature of Kagoshima* 49: 149–152.

☑ ND: Kagoshima City Aquarium, 3-1 Honko-shimmachi, Kagoshima 892-0814, Japan (e-mail: n-dewa@ioworld.jp).

Received: 25 December 2022; published online: 27 Decemer 2022; [https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK\\_049/049-031.pdf](https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_049/049-031.pdf)



Fig. 1. Live individual of *Monodactylus argenteus* housed at the Kagoshima City Aquarium (KCA22W0271; 11 Mar. 2022; photo by T. Fujii).

**標本** 8 個体（体長 11.6–31.9 mm）：KAUM-I. 169604, 体長 14.4 mm, 鹿児島県南さつま市坊津町泊港 (31°16'40"N, 130°13'39"E), 手網, 水深 0.1 m, 2022 年 6 月 18 日, 渡部 泰斗；KAUM-I. 171377, 体長 28.0 mm, KAUM-I. 171378, 体長 26.8 mm, KAUM-I. 171379, 体長 22.8 mm, 鹿児島県南さつま市坊津町坊 硯川河口 (31°16'08"N, 130°13'46"E), 手網, 水深 0.3 m, 2022 年 8 月 13 日, 是枝伶旺；KAUM-I. 175217, 体長 31.9 mm, 鹿児島県南九州市颯娃町別府 水成川 (31°15'15"N, 130°26'06"E), 手網, 水深 0.4 m, 2022 年 9 月 10 日, 是枝伶旺；KAUM-I. 176964, 体長 18.6 mm, KAUM-I. 176965, 体長 11.6 mm, KAUM-I. 176966, 体長 11.6 mm, 鹿児島県南九州市颯娃町別府 水成川 (31°15'14"N, 130°26'07"E), 徒手, 水深 0.2–0.5 m, 2022 年 11 月 12 日, 是枝伶旺。

**同定** 本研究で調査した 9 標本は, 体が著しく高く側扁すること, 背鰭と臀鰭の軟条部が対称的に上下に広がること, および頭部に 2 本の狭い黒色横帯があることが波戸岡 (2013) の示したヒメツバメウオの標徴と一致した。なお, 生体標本を除く 8 標本は腹鰭が発達しており波戸岡 (2013) が本種の標徴とした左右の腹鰭が退化的で, それぞれごく短い 1 棘のみからなるという形質について一致していない。岡・木下 (2014) は

本種の稚魚期は腹鰭がよく発達し, 成魚になると退化的で 1 対の小棘となると記しており, 山川ほか (2017) においては体長 32.5 mm の個体が稚魚と判断されていることから, これらの 8 標本は稚魚期であると考えられる。

**備考** ヒメツバメウオの国内におけるの分布域は「はじめに」で記したとおりであり, 鹿児島県本土における本種の分布記録は 2003 年度版鹿児島県レッドデータブック内の本種の項に「薩摩地方が分布の北限」と記述されているのみである (米沢, 2003)。また, Iwatsuki et al. (2017) は大分県南部から鹿児島県の大隅半島太平洋沿岸までを日向灘とし, 当該海域の魚類目録を報告する中で本種を標本に基づいてリストしているが, 標本の得られた場所は明記されておらず不明であった。そのため, 本研究で調査した 9 標本は, ヒメツバメウオの標本に基づく鹿児島県本土における確かな分布記録となる。

本研究で得られた 9 標本は初夏から初冬にかけて薩摩半島南岸の河川もしくは河口付近に位置する港湾において採集された。また, 米沢 (2003) において分布の根拠となった情報は, 一般社団法人鹿児島県環境技術協会の米沢俊彦氏が 1997 年頃に万之瀬川で本種の小型個体を採集したことに基づいている (米沢俊彦氏, 私信)。さらに, 本種は 1990 年代後半から 2010 年にかけて, 南さつま市大浦町の大浦川下流で全長 100 mm 程度の成魚の群れや, 南九州市颯娃町の加治佐川下流で稚魚期の個体の群れが夏の終わりから秋にかけて度々目撃されている (出羽慎一氏, 私信)。また, Iwatsuki et al. (2017) は日向灘における本種の出現を common としていた。これらのことから, ヒメツバメウオは九州南部の暖流の影響を強く受ける沿岸域およびその流入河川において, 一定数の加入が生じていると考えられる。薩摩半島南部において, 本種は大型の個体が複数目視されており, 再生産の有無は不明であるものの, 少なくとも断続的に越冬している可能性もある。

## 謝 辞

本校執筆に際し, 枕崎市在住の池上邦弘氏に

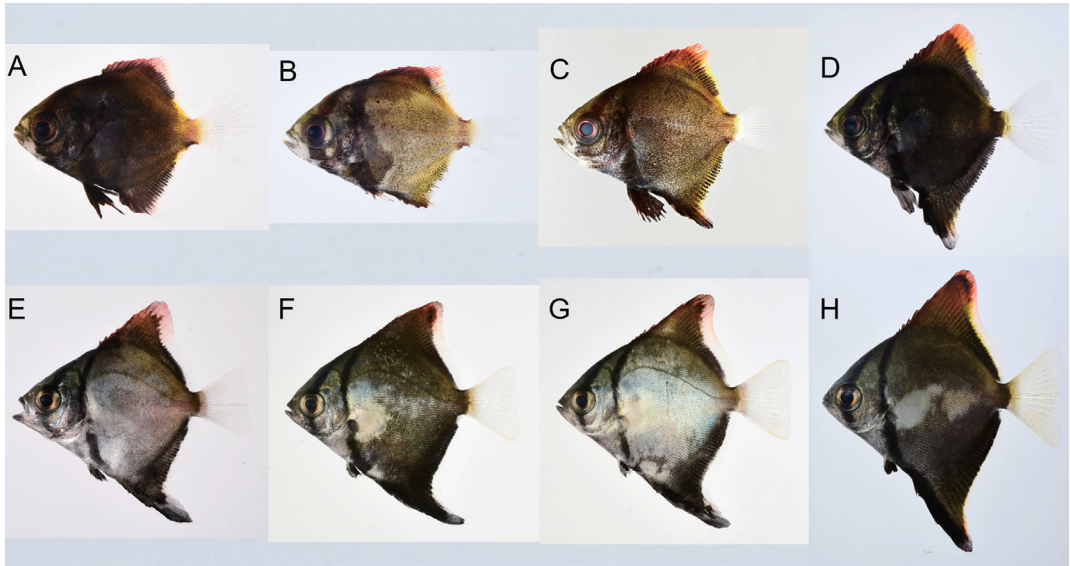


Fig. 2. Fresh specimens of *Monodactylus argenteus* (A: KAUM-I. 176965, 11.6 mm SL; B: KAUM-I. 176966, 11.6 mm SL; C: KAUM-I. 169604, 14.4 mm SL; D: KAUM-I. 176964, 18.6 mm SL; E: KAUM-I. 171379, 22.8 mm SL; F: KAUM-I. 171378, 26.8 mm SL; G: KAUM-I. 171377, 28.0 mm SL; H: KAUM-I. 175217, 31.9 mm SL) from the Satsuma Peninsula, Kagoshima Prefecture, southern Japan, arranged in order of size.

はヒメツバメウオの生体を寄贈していただき、一般社団法人鹿児島市環境技術協会の米沢俊彦氏とダイビングサービス海案内の出羽慎一氏には鹿児島県本土におけるヒメツバメウオの分布記録についての情報を賜った。鴨川シーワールドの上野洸史郎氏には文献の収集にご協力いただいた。鹿児島大学総合研究博物館魚類分類学研究室のみなさまと同博物館のボランティアのみなさまには標本の登録・管理にご協力いただいた。同研究室の古橋龍星氏、鹿児島大学水産学部の前田知範氏、大井真人氏、水野有朝氏、および渡辺隆太氏、霧島市在住の久木田直斗氏には採集調査にご協力いただいた。上記の方々に深く感謝する。本研究の一部はJSPS科学研究費(17K15198・20H03311・21H03651)、JSPS研究拠点形成事業-Bアジア・アフリカ学術基盤形成型(CREPSUM JPJSCCB20200009)、文部科学省機能強化費「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」、および鹿児島大学のミッション実現戦略分事業(奄美群島を中心とした「生物と文化の多様性保全」と「地方創生」の革新的融合モデル)の援助を受けた。

## 引用文献

- 萬代あゆみ. 2019. ヒメツバメウオ科, p. 195. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典(編). 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 波戸岡清峰. 2013. ヒメツバメウオ科, pp. 987, 2021. 中坊徹次(編). 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- Iwatsuki, Y., H. Nagino, F. Tanaka, H. Wada, K. Tanahara, M. Wada, H. Tanaka, K. Hidaka and S. Kimura. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes in the Hyuga Nada area, southwestern Japan. Bulletin of the Graduate School of Bioresources, Mie University, 43: 27–55.
- 楯 善継・脇本聡志. 2019. 和歌山市加太で採集されたヒメツバメウオ. 南紀生物, 61: 183–185.
- 木村祐貴・日比野友亮・三木涼平・峯 健・小枝圭太(編). 2017. 緑の火山島 口永良部島の魚類図鑑. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 200 pp.
- 三木涼平. 2021. ヒメツバメウオ, pp. 166–167. 村瀬敦宣・緒方悠輝也・三木涼平・和田正昭・瀬能 宏(編). 新・門川の魚図鑑: ひむかの海の魚たち. 宮崎大学農学部附属フィールド科学研究センター延岡フィールド, 延岡. 357 pp.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp.
- 本村浩之. 2022. 日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準名と学名. Online ver. 18. (<https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/jaf.html>)
- Motomura, H. and M. Matsunuma. 2022. Fish diversity along the Kuroshio Current, pp. 63–78. In Kai, Y., H. Motomura and K. Matsuura (eds.) Fish diversity of Japan: evolution, zoogeography, and conservation. Springer Nature Singapore Pte Ltd., Singapore.
- 岡慎一郎・木下 泉. 2014. ヒメツバメウオ, pp. 896–897. 沖山宗雄(編). 日本産稚魚図鑑 第2版. 東海大学出版会, 東京.

- 山川宇宙・坪 健人・酒井 卓・三井翔太・瀬能 宏.  
2017. 相模湾とその周辺地域の河川及び沿岸域で記録  
された注目すべき魚類5種. 神奈川自然誌資料, 38:  
77-82.
- 山本泰司・太田 満・田名瀬英明. 2000. 袋湾(紀伊半島  
南西部)より収集したヒメツバメウオと飼育経過. 瀬  
戸臨海実験所年報, 13: 32-35.
- 米沢俊彦. 2003. 分布特性上重要, pp. 154-158. 鹿児島県  
環境生活部環境保護課(編). 鹿児島県の絶滅のおそ  
れのある野生動植物 動物編 鹿児島県レッドデー  
タブック. 鹿児島県環境技術協会, 鹿児島.
- 吉郷英範. 2014. 琉球列島産陸水性魚類相および文献目録.  
Fauna Ryukyuana, 9: 1-153.